

みんなの町議会



目次

- 9月定例会の概要 …………… 2～3
- 一般質問（3人登壇） …………… 4～6
- 常任委員会の焦点／決算特別委員会報告… 7～9
- 議会報告会 …………… 10
- 請願・陳情・意見書 …………… 11
- 議会を訪ねて／議員研修会・大会 …… 12
- あれ なんと なったべが …………… 13
- いちびをたずねて・がんばってます …… 14

No. 108

2011年10月1日

新しい校舎・グラウンドで大運動会
五城目第一中学校

大震災を教訓に 主要施設に発電機を整備

議会の概要

9月定例会は9月6日から16日までの11日間の日程で開かれた。

一般質問は3人が登壇し農業振興策、災害時の対応、湖東病院の改築など町政の諸課題について活発な議論を展開した。

提出案件は平成23年度一般会計補正予算案、町議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例制定案、平成22年度各会計決算認定案など24件。

渡邊町長は行政報告で「湖東総合病院は総合診療・家庭医養成事業の指導医が内定したことから医師確保に目途が付いたとして、JA秋田厚生連は来年度予算に設計費、建設費を計上する予定。湖東総合病院は改築に向けて一歩前進した。」と述べた。

行政報告のあと、決算委員7名で決算特別委員会を設置。代表監査委員による監査報告が行われた。各常任委員会、決算特別委員会の審査を行い、最終日は各委員長報告の後、全議案を全会一致で可決、認定、報告済みとした。

副町長の選任に同意。請願3件を採択、陳情4件を採択、3件を継続審査。追加提案された議員提出議案「コメの先物取引試験上場を求める意見書」など5件を可決して閉会した。

補正予算の主なものは東日本大震災を教訓に、緊急時における停電への対応として、災害時の避難場所になつている地区公民館・学校など10カ所の施設へ、非常用発電機を整備するもの。

6、7月の豪雨で被害を受けた農業施設の復旧費6千674万円。

補正予算は1億7千785万円の追加で累計52億6千469万円。



節電のためドアを開放しての議会となった

平成22年度決算認定は
歳入：67億3千989万円
歳出：63億1千721万円
繰り越し分を除いた実質収支は3億3千824万円の黒字。



副町長
武田 和栄氏 (60歳)
の選任に同意

任期は11月1日から4年間



武田 和栄氏
高崎字前田4

議員定数にさまざまな意見 活性化調査会で意向調査

議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例制定案が総務常任委員会に付託された。

改正地方自治法が8月1日に施行されたことに伴い、議員定数について、人口1万人から2万人まで定数22人の上限を人口に応じて定めている規定を撤廃した。

現在の定数は16人に定めている。今後は人口の動静、財政状況を検証しながら議会が自ら判断することになる。

総務常任委員会では議員定数については、活性化調査会で議論を深めていることから調査会に委ねた。

活性化調査会では、議会の活動が町民に見えにくいなどの指摘を受け、一般質問を一问一答方式とし、議会報告会を開催するなど議会改革に取り組んできた。

議員定数については町民の関心も高いことから、今後の判断材料として意向調査を行ったので結果についてお知らせする。

問 来年3月が改選期ですが、定数をどうすべきだと考えますか。

1、このまま(16人)でよい。
.....9人

2、14人にすべきだ。.....7人

理由について

〈1の回答者〉
・常任委員会等を考えると現状で良い。

・町民の代弁者を減らすべきではない。

・問われるのは、数ではなく質と思う。

・国策での町村合併、定数減、地域の自立を促すためにも3常任委員会を基として現定数が適正である。

・他町村と比較しても少ない。H12年に2人、H20年に4

人減。面積、人口を見ても妥当。

・新人候補の為にも間口を広げることは重要。チェック機能を発揮するには現状が良い。

・人口が1万人割った時点で検討すべき。

・議員数の減少は民意を弱める。町民の中にある「議員減らせ」に迎合すべきでない。

〈2の回答者〉

・日本の危機的状況の中で、地方自治体も改革は必要。定数も慎重に考えるべきである。

・町民の意向を重く受け止める。

・町民の民意による。
・人口減、民意の声

意向調査による議員の考え方を紹介したが、改選期も近いことから今後、活性化調査会では判断材料として類似町村から資料を求め、12月定例会前の早い時期に臨時会の開催を要請して、早急に議員定数に関して結論を得たいとしている。

第2回臨時会

7月15日

平成23年度一般会計補正予算案を可決。議会推薦の農業委員2人を選出し閉会した。

同補正予算は835万円で累計50億8千684万円。

補正予算は6月30日の豪雨による農地などの災害復旧費371万円が主なもの。

農業委員



工藤 洋子氏 (61)
西磯ノ目、無職



加藤 茂子氏 (64)
大川西野、農業

大震災によるコメの代行生産に なぜ対応しなかったか

一般質問



伊藤 正春
(正心会)

町長 取りまとめの期日がないことから見送った

伊藤 被災地では津波や原発事故によりコメの生産を断念した。県より代行生産の依頼があったと思うが、町の対応について問う。

町長 宮城県より2,000haの県間調整が国に要望され、それを受け4月11日付けで、県から4月14日を回答期限として依頼がありJAあきた湖

H22年の不作に適切な営農指導と 支援策を講じたか

伊藤 昨年の作柄は高温障害の影響もあり作況は504キ口、全県で最低の収穫量である。所得減と、営農指導にどのように対応したか。

町長 作況指数「90」の不良になり、経営の安定化を図る支援策として「水稻収量激減農家支援事業」により880万円を支援。低利の「県営農維持緊急支援資金」が創設

東に確認したが、少量の作付けでは該当にならないとのことであった。

伊藤 県内では横手市が2,334トンを生産。井川町は36haの代行生産をしているが。

町長 農業者への周知、取りまとめの期日が無いこと、育苗が開始された後であり、作付け予定面積が確定していたことから見送ることになった。



作況指数「98」刈取り始まる

支援策を講じたか

されたことから利子補給を予算化した。営農指導に関しては県やJAの指導機関からの情報を的確に繋いでいきたい。

伊藤 町税の減収はどの位か。

町長 農業総所得金額がマイナス8,138万円の前年度より1億9,135万円の減少。農業所得に対する課税標準額は3,300万円の減となり税額で200万円の減少。

「地域おこし協力隊員」 を募集しよう

伊藤 大都市の若者が過疎化、高齢化の進んだ地域に3年間移住し、農林業の振興や地域活性化などの活動を行う総務省が財政支援する制度だ。県内では上小阿仁村始め、4市1町村で地域づくりに活動している。

町長 農業の担い手不足、高齢化、人口減少に伴い、行事やコミュニティの維持、高齢者の日常生活に支障をきたすことから協力隊員により地域活動の維持、活性化が図られることから期待がもてる制度である。募集については県内の取り組み内容や集落における要望を踏まえ検討したい。

AED(自動体外式 除細動器)を地区 公民館へ設置を

伊藤 町内の小・中学校や公の施設には設置されているが、地区公民館には整備されていない。AEDの取り扱い指導と救急救命講習はどのように行われているか。

町長 各種講座やイベントで多くの町民が利用する地区公

小学校入学前の医療費無料化の 取り組みは

民館は避難場所に指定されていることから設置を検討したい。AEDの取り扱いや救命講習は町内会・学校・各施設・企業の要望により行っている。受講者数は延べ2,390人となっている。

伊藤 医療費に所得制限がついているが、撤廃する考えはないか。

町長 未就学児、ひとり親家庭18歳、身体障害者などの方には医療費無料となっている。所得制限を受けている27人にはH24年度から撤廃する方向で準備している。



医療費無料化が待たれる

あなたにかわって
聞きました

一般質問

被災地（岩手県大槌町）への 小学校（5、6年生）中学校 （1、2年生）のボランティア 体験修学旅行を！



館岡 隆
(新世紀クラブ)

館岡 大震災から半年、被災地はまだまだ大変な状況にある。我が町と関係の深い岩手県大槌町に小・中学生を派遣してボランティア体験をさせ、交流することは双方の小中学生にとって、友情、思いやり、社会奉仕意欲、社会性、教育上極めて有効と思われる。ボランティア体験修学旅行は。

町長 生きる力の醸成など、児童生徒にとって学ぶ面は多々あるが、安全性の確保や保護者の理解。カリキュラムの調整が図られてから実施すべきである。

教育長 修学旅行の制約はある。部活動などの交流はできる。来年度東松島方面へのコースを変更して実施は可能である。

湖東病院改築 今後の対応は

館岡 8月25日の報道に『湖東病院の改築に目途が付いた』とあったが100病床入院3科目外来10科目である。救急医療体制は絶対必要である。平成17年に協議された、あの時点での負担金は4町村で20%とされていた（約10億）。今回、当時の負担金を拠出すれば救急体制は出来ると思うが？

町長 強く要望していく。

町長の決断で一年遅らせる馬小統合の教育的メリット、デメリットは
館岡 平成23年3月議会で、教育委員会が平成24年4月に馬場目小を統合すると報告があったが、町長は統合を一年遅らせ、平成25年4月とするとした。メリット・デメリットは。

町長 メリットは、地域住民

や保護者の理解のもとに統合が進められる。デメリットは、本年度の新入生は1人で全校児童数は19名、平成24年度は1学級2人の複式授業が見込まれ、教育環境や学校経営上支障をきたす。

今こそ大胆な政策を 「総合発展計画」

館岡 高齢化率が県内ワースト3の38%だ。10年後は50%近くになる。人口減は深刻だ。渡邊町政六年半何一つ良好なものはない。今こそ、大胆な政策を掲げよ。町長はどんな町を描くのか？



10年後の五城目に夢をもてるか

町長 地域資源のよさを再認識しつつ五城目らしさを追求し、協働と自立を基調としたまちづくりを推進したい。

非常災害の対応



訓練状況（五小グラウンド）

館岡 生活インフラの確保、冠水箇所の対応・土のうなどの確保・対応業者の連携、地域ごとの防災訓練を実施せよ。

町長 各地区公民館などへ非常用発電機を予算計上した。緊急物資の備蓄体制は県と各市町村間で協議している。自主防衛こそが最善の策と考えている。「防災マニュアル」を改めて熟読していただければと考えている。

一般質問

湖東病院改築の方向性は出たが、救急受け入れを何として実現するか

町長

緊急医療体制の整備を目指す活動を官民一体となって展開したい



石川 交三
(日本共産党)



改築に向けて、これからが大事

石川 病院改築は造成している場所に新しく建設するということが。

町長 以前より取得造成している土地に新たに建設するものと認識している。

石川 高崎の案山子が言っているように「改築」は一歩前進だが、「救急患者の受け入れ

れをお願いします！」というのが町民の願いだ。改築しても救急車が病院前を通過して高速に乗り秋田方面に向かうとすれば、何のための建設であり、財政負担かという疑問が出てくる。

町長 夜間休日診療の実施や緊急医療体制の整備は、「再編計画」では将来の目指すべき方向として捉えており、その機能改善に向けた活動を4カ町村と住民の会が一体となって続けていきたい。

副町長 まず改築が大きな一歩であり、経営赤字などへの対応は次のステップととらえている。

石川 改築に関する町民の関心は高い。県と厚生連に対し

「説明会」の開催要望をしてはどうか。「みんなが病院を支えていく」という姿勢・運動は極めて重要だ。

町長 改築に向けての説明会や医療講演会の開催は、病院を支えていくという地域住民の意識高揚を図るためにも大事だ。そういった活動に対し、協力や支援を続けていく。

「緑のバトン」運動を展開しよう！

石川 北海道の夕張市で行っているし、他市町村でも例がある。「命のバトン」とも言うが、住所・氏名・年齢・血液型・主治医・服用薬などを記入した紙をバトンに入れ冷蔵庫に入れておくものだ。救急搬送の場合や病院への連絡の際に有効だと思うがどうか。

町長 救急搬送の場合に大変有効であるものと考えている。秋田市では「安心キット」の名目で高齢者世帯や70歳以上の一人暮らし世帯に配布して活用しており、八郎潟町でも今年度実施予定のようだ。

町民の安心・安全、福祉向上に有効であり、前向きに検討したい。

自然エネルギーの開発着手を提案する

石川 岩手県葛巻町が、自然エネルギーだけで電力180%を実現し全国的に注目されている。約3千世帯だが、風力で1万6千世帯分の電気を生み出している。太陽光・木質バイオマス・牛糞活用の発電施設など、町をあげて推進している。エネルギーや地球環境問題は、自治体や地域が自ら取り組むべき重要な問題だ。

町長 葛巻町は当町と似たような山間部の町であり、先進事例に学び自然エネルギーの取り組みは可能と考えられる。情報収集に努めて知識を蓄えるとともに、取り組みについて検討したい。



命のバトン

この他に
○町の行事の運営方法と
内容の改善について
質問しました。

決算特別委員会 報告



委員長 佐藤 重信

22年度決算を全会一致で認定 五城目第一中学校が完成

不納欠損の処理に意見が続出

付託された議案は、平成22年度一般会計決算と特別会計決算9件の10件である。

審査日程は9月9日より14日までの4日間。

審査方針は町税徴収状況、各事業が予算通り執行されたか、不用額となった状況などの精査である。

22年度は五城目第一中学校の完成・道路整備事業・各種農林事業など多くの事業を消化し、国の補助金・臨時交付金を活用して起債の予定も当初より大幅に減らした。公債比率も13・5%と低く、昨年より向上している。今後、消防署・し尿処理場の建設・湖東総合病院の建設に伴う負担金などが生じてくる。町民へのサービス精神を忘れずに事業の推進を求めた。

◆徴収率の向上が見られるが滞納者が固定化してきている。悪質な滞納者には納付誓約書や一部納入で時効の中断をとるなど、不公平感のないよう徴収にあたり、滞納一掃運動推進で納税義務の啓蒙を進めることを求めた。

◆まちづくり課は設立当時の原点に立ち返り雇用の創出・定住促進・都市交流の業務に専念することを求めた。町長

交際費は不用額が出ている。少ない予算であるが町のトップセールスとして行動して欲しい。

◆大震災を参考に今までの防災を見直し、地域に合った防災訓練の必要性和被災者支援システムの導入の検討を求めらる。

◆22年度は職員の不祥事が発生した。再発防止に向けての自己点検のチェックリスト・公金取り扱い事務の管理適正化方針を確認し不正防止、綱紀粛正に努めるよう指摘した。



決算特別委員会現地視察（五一中）

◆五城目第一中学校が総額22億663万7千円で完成している。国の補助などが13億1千224万7千円、起債が7億1千920万円、一般財源が1億7千519万円である。当初の計画では起債は14億1千8百万円であったが、国庫補助金、臨時交付金などの活用

決算特別委員会

委員長 佐藤 重信
副委員長 荒川 達雄
委員 館岡 幸雄
佐々木 鉄美
館岡 隆
澤田 石亀雄
千田 峯夫
荒川 正己

参与

荒川 正己

こんなことを審議しました

教育民生 常任委員会

社会福祉協議会会長と 町長の兼務を解消へ

町長から、去る6月10日開催の社会福祉協議会理事会において表明した内容について説明があり「今限りで会長職を辞する決意をしていたが、大震災の発生や発展計画の策定などで時が経過してしまっただ。任期中中であっても、社会福祉協議会における地域づくり体制の整備や専門性を高める組織体制の強化に『一定のメド』がついた段階で、会長職を辞す」との表明があった。

介護保険料 県内第2位

介護保険料が県内において男鹿市に次いで第2位の高水準にあり、町内における関係事業所を確認した。訪問看護、訪問リハビリ、福祉用具販売、福祉用具貸与、デイケア、ショートステイ（医療）、グループホーム、居宅介護支援、ショートステイ（福祉）、デイサービス、訪問介護、老人福祉施設、小規模多機能型、特定施設と44事業所が登録されている。被介護者数は、3,965名となっていて本会計の総額は16億8,421万4千円となった。

こんなことを審議しました

総務 常任委員会

平成22年度の 町財政は健全

平成22年度健全化判断比率

地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づき、監査委員から意見を付して報告される。

実質赤字比率・連結実質赤字比率は黒字で、数値は出ない。実質公債費比率は13.5%で前年より1ポイント下が、早期健全化基準の25%より大きく下回り良好状態。

将来負担比率も122.1%で前年33.3ポイント下回り、早期健全化基準の350%を大きく下回り、良好な状況である。

役場庁舎非常用 発電機の工事に 137万円

委員 東日本大震災時になぜ庁舎の電源が切れたのか。当局 当時は水道水で冷却していたので断水により停電した。工事は、地下水を使用し冷却することで二週間位の発電を可能にする庁舎管理費の補正である。

国調補正に 617万円

県道能代・五城目線の道路拡幅工事に絡み測量調査を実施したが、国土調査の地図と現況が合致せず、黒土地内の歩道拡幅工事に着手できず、測量調査のために地籍調査費を補正計上した。

委員 町が衰退する中で土地の価格は下落しているが固定資産税は下がらずバランスが悪いと批判されている。

当局 固定資産税の価格は不動産鑑定士が鑑定し、県の審査で決定されるので適正である。（小林 正志）



国調と現況が不一致（黒土町内）

緊急時用として発電機10台を設置

東日本大震災を教訓に、緊急時用として発電機10台が各施設に設置される。

- ・馬川地区交流センター
- ・馬場目地区交流センター
- ・富津内地区公民館
- ・総合生きがいセンター

- ・農村環境改善センター
- ・森山地区公民館
- ・杉沢交流センター友愛館
- ・五城目小学校
- ・五城目第一中学校
- ・五城目朝市ふれあい館

「煙体験ハウス」を購入

建物の高気密化、高断熱化が進み火災発生時に煙による死傷者が増加している。災害や緊急時の避難訓練に活用でき、その効果が期待される。

(館岡 幸雄)



「煙体験」をする園児たち
(森山子ども園)



委員会の焦点

農家レストラン「清流の森」 管理委託料の増額で支援

農家レストラン「清流の森」は直営から昨年8月に清流の会へ指定管理され順調に経営されていたが、東日本大震災



更なる誘客に努力を

に伴う自粛ムードにより収支が悪化し管理委託料の増額が提案された。本会議で議案上程された際に、管理委託料の圧縮を求められ当局と指定管理者との協議を経て170万円から145万円に修正された。

委員からは溪流釣りや入山客の減少は理解できるが、山村集落の活性化と再生を果たす役割も大きいことから、営業継続のためにも更なる創意工夫と経費節減、PR活動とリピーターに足を運んでいただけるよう魅力ある食材で料理を提供できるよう求めた。

の電源を賄える大型発電機を整備する。災害に備えをし、町民に安心感を与え、飲料水を保障するものである。建屋・発電機含めて総事業費は6,636万円。

(伊藤 正春)

浄水場に 発電機を設置

東日本大震災で非常用の発電機がなく停電により断水した。

たとえ停電となっても断水を回避できるように、浄水場

こんなことを審議しました

産業建設 常任委員会

湖東病院

来年度 改築へ



— 改築の方向が示された湖東病院 —

医師の不足により、入院患者の受け入れを休止している湖東総合病院の改築工事が来年度から行われる。経営するJA秋田厚生連が経営管理委員会で決めた。

県の委託を受けて厚生連は来年度から「総合診療・家庭医」養成事業を行うが、この事業への応募で「医師確保のめどが付いた」ことから、来年度の改築に着手する方針を決めたもの。

改築して存続させるための「湖東地区医療再編計画」は作ったが、医師不足で見通しがこれまでは不透明だった。

湖東病院では医師の退職が相次いで、2009年3月に21人いた常勤医が現在は3人に減少している。研修医確保の見通しはできたものの、今後も様々な手段での医師確保策が求められている。

「湖東病院を守る住民の会」と五城目町議会議員との懇談会を開催（8月5日）

五城目町議会内に設置している「議会改革等活性化調査会」（会長・工藤卓美議員）の呼びかけに住民の会側が応えてくれて実現したもの。

挨拶や資料説明の後、率直な意見



- を交換した。主な内容は次の通り。
- 議会と住民の会が町民と一緒にならんらかのアクションをおこななければならぬのではないか。
- 改築するにしても、せめて救急患者受け入れと手術できる設備が必要だ。
- 首長と議会がもっと頑張らなければ厚生連は動かないのではないか。
- 4町村の行政がどういった動きをしているのか。合意点を把握して活動展開したほうが良い。
- 各自自治体の対応予算が不足している。
- 各町村の議会が連携して県に要望行動など展開すべきではないか。

議会側、住民の会側から意見が続出した。何かを決める会議ではなく、意見交換の場であり限られた時間ではあったが、貴重な会議となった。

議会 報告会

8月24日



率浦大学・大学院・自主大学で「議会報告会」を開催。議会改革等活性化調査会が主催し、大学側に呼びかけて実施した。大学側では「学習の一環」と位置付けている。司会を調査会の館岡隆幹事長が務めた。

○調査会・工藤卓美会長が「調査会の活動について」

○石川交三副会長が「議会の



仕組みと議員定数について」

○佐々木鉄美幹事が「馬場目小学校の統合について」

○荒川達雄幹事が「湖東病院現状と展望・議会の対応について」

それぞれ報告し、大学生2人より質問があり、荒川議長らが答弁。沢田石副議長が閉会の挨拶をし有意義に終了した。



（石川 交三）

請願 陳情

請願

採択

◆米の先物取引試験
上場の中止を求める
請願

秋田県米価対策共闘会議

代表者 議長 佐藤長衛門

審査概要 願意は理解できる

全会一致採択

採択

◆30人以下学級実現
を求める意見書採択
についての請願書

秋田県教職員組合

執行委員長 伊藤 正通

男鹿南秋支部

支部長 渡部 豊彦

審査概要 願意は理解できる

全会一致採択

採択

◆「義務教育費国庫負担制度堅持及び国庫負担2分の1復元」を求める意見書採択についての請願書

秋田県教職員組合

執行委員長 伊藤 正通

男鹿南秋支部

支部長 渡部 豊彦

審査概要 願意は理解できる

全会一致採択

陳情

採択

◆建築職人の技能を守る
為に公共設計労務単
価引き上げの陳情

秋田県建設技能組合連合会

会長 金森 勝三

五城目建設技能組合

組合長 佐々木勝美

審査概要 願意は理解できる

全会一致採択

採択

◆「地方消費者行政
充実のための国による
支援に関する意見書」
の採択等々を求める
陳情書

秋田弁護士会

会長 三浦 清

審査概要 願意は理解できる

全会一致採択

採択

◆地方財政の充実・強
化を求める意見書採択
に関する陳情書

連合秋田男鹿潟上南秋地区連絡会

議長 小玉 俊己

審査概要 願意は理解できる

全会一致採択

採択

◆学校給食に地場産
野菜活用の一層の向
上を求める陳情書

学校給食に地場産物の活用を
求める会

秋田県革新新筆筆頭代表世話人

山内 満

審査概要

決議を求める陳情であった
が当町はすでに地場産物活用し
ていることから決議は行わず、
全会一致採択とした。

継続審査

◆拡大生産者責任
(EPR)及びデポジ
ット制度法制化を求
める意見書の採択に
ついて(お願い)

福岡県築後市長 中村 征一

福岡県大川市長 植木 光治

福岡県大木町長 石川 潤

環境自治体を目指すちっぴ委員会
委員長 荒木 フナ

審査概要

現在当町で行っている分別
収集と整合性がなくなること
から、更に精査することです
全会一致継続審査となる。

継続審査

◆辺野古への新基地
建設・米軍訓練の全
国への移転拡充を約
束した「日米合意」
の撤回を政府に求め
る意見書について

秋田県平和委員会

理事長 風間 幸蔵

継続審査

米軍への「思いやり予
算」廃止の意見書採択
を求める陳情

安保破棄諸要求貫徹秋田県実
行委員会
事務局長 中田 博

意見書送付

五城目町議会の各意見書を
各関係機関に提出しました。

地方消費者行政に対する国
の実効的支援を求める意見
書について

提出先

衆議院議長 横道 孝弘
参議院議長 西岡 武夫
内閣総理大臣 野田 佳彦
財務大臣 安倍 淳
総務大臣 川端 達夫
消費者担当大臣 山岡 賢次

地方財政の充実・強化を求
める意見書

提出先

内閣総理大臣 野田 佳彦
内閣官房長官 藤村 修
総務大臣 川端 達夫
財務大臣 安倍 淳
厚生労働大臣 小宮山洋子
経済産業大臣 枝野 幸男
内閣府特命大臣 古川 元久
(経済財政政策)

30人以下学級実現を求める
意見書について

提出先

内閣総理大臣 野田 佳彦
内閣官房長官 藤村 修
文部科学大臣 中川 正春
財務大臣 安倍 淳
総務大臣 川端 達夫
内閣府特命大臣 片山 善博
(地域主権推進)

米の先物取引試験上場の中
止を求める意見書について

提出先

内閣総理大臣 野田 佳彦
農林水産大臣 鹿野 道彦
経済産業大臣 枝野 幸男
(佐藤 重信)

議会を 訪ねて

日本赤十字秋田看護大学

菊地 美里

伊勢崎 好

佐藤 佑果



今回、11月に地域の実習があり、五城目町役場で学ぶにあたり、9月定例町議会が開会された2日目の9月7日午前、初めて議会傍聴をする機会がありました。

議員の方々が質問なされている中で、3月11日の東日本大震災に関連した被災地への支援のあり方や、五城目町としての災害対策、湖東総合病院の改築にあたっての地域医療のあり方などを含めた総合発展計画について、などが討議されていました。

私たちが安心・安全に暮らしていくことができるようにこのような定例町議会が開かれていることを知り、今まであまり関心を持っていなかった町の行政について関心を持ち、私たちのような若い世代も町づくりに積極的に参加していかなければならないと感じました。

多くの方々の力によって行政が成り立っているということに改めて感じることができました。

秋田県町村議会広報研修会

日時 平成23年7月11日(月)

午前10時30分～正午

場所 秋田市 ルポールみずほ
3階「ふようの間」

講演

・ 演題 「議会だより」のチェックポイント

・ 講師 エディター 都市創事務所代表、
いわみふるさとネット代表 都市創

参加者 広報編集委員 伊藤正春、伊藤英紀、
小林正志、佐藤重信、石川交三、参与議長 荒

川正己、副議長 澤田石亀雄、事務局 伊藤直勝
8名出席。各町村から総勢84名が出席した。

主催者 秋田県町村議会議長連絡協議会

秋田県町村議会議員研修会

日時 平成23年7月11日(月)

午後1時30分～4時

場所 秋田県市町村会館
5階大会議室

講演

・ 演題 「流動化する日本政

治の行方」「今後の政局・政治展望」。震災復興政策は……

・ 講師 伊藤博夫

・ 参加者 政治アナリスト
荒川正己、澤田石亀雄、

伊藤英紀、佐藤成孝、館岡幸雄、
工藤卓美、小林正志、千田峯夫



秋田県町村議会議員研修会

館岡隆、石井章司、石川交三、荒川達雄、
佐々木鉄美、佐藤重信、伊藤正春、事務局 伊

藤直勝、工藤成子 17名。各町村より総勢1
74名出席。

主催者 秋田県町村議会議長連絡協議会

平成23年度

南秋田郡町村議会議員大会

日時 平成23年8月22日(月)

午後2時～4時

場所 五城目町 グリーンロイヤル丸富

講演

・ 演題 「原子力発電の現状と発電の未来について」

・ 講師 東北原子力懇談会

専務理事 向田吉広

参加者 荒川正己、澤田石亀雄、伊

藤英紀、佐藤成孝、館岡幸雄、工藤
卓美、石川交三、小林正志、千田峯
夫、館岡隆、石井章司、荒川達雄、
佐々木鉄美、佐藤重信、伊藤正春、
事務局 伊藤直勝、工藤成子 17名。
各町村から総勢57名出席。

主催者 南秋田郡議会議長連絡協議会

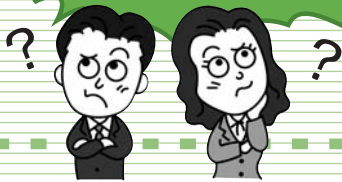
◎大会決議

○湖東総合病院の早期改築と医師確保。
○八朗湖水質浄化の抜本的な対策の早期推進。
○松くい虫被害対策及びヤマビル被害対策の一層の推進。
○秋田中央地区広域農道の県道昇格を期する。

(伊藤英紀)



あれ



なんとになったべが!

平成22年9月定例会一般質問より



コンプライアンス（法令遵守）の確立を

問

職員による雇用対策交付金着服問題を受け、今後の対応と再発防止策は。

答

再発防止にむけ、①倫理意識の改善、②相互チェック体制の整備、③不正防止マニュアルを作成する。全体の奉仕者として緊張感をもって業務を執行する。

現在

職務の執行方法や事務処理過程の徹底的な検証を実施。不祥事を

未然に防止するため

「公金取扱事務の管理適正化方針」を定め、全職員に配布周知した。また、「自己点検チェックリスト」を作成し、現金の流れを再点検し適正な会計処理の確認と改善を図り、不正の温床や過誤の誘発とならないよう努めている。

問

100歳以上の高齢者の戸籍上の「生存」状態は。

答

戸籍上の100歳以上の高齢者は31名で、町登録者が3名、他市町村が4名、不明者が24名となっている。

現在

戸籍上の100歳以上の高齢者は平成23年9月1日現在で32名で内、町登録者が4名、他市町村が3名、不明者は25人となっている。

問

住宅リフォーム助成制度の継続を。

答

町単独で単年度事業でスタートしたため5%の補助ではあまり効果がない。県の動向や経済状態を見極めたい。

現在

県の事業決定を受け、県と併行して実施している。町ホームページや広報ごじょうめに掲載中。

問

救急医療の「五城目ルール」をつくってはどうか。

答

開業医と協議を重ねた

現在

町内の医師と相談を重ね引き続き協議中。

(館岡 幸雄)





佐々木カツ工さん
(岡本二区)



夏秋冬、耕して作り上げたもので新鮮なものです。

◆ 楽しかった事は何ですか。

佐々木 生活費を得たことと、何よりも「売り手仲間」と「毎度買って下さる常連さん」と「話し相手」になり楽しい時間を持てることです。「仲間意識」が強くなり、いろいろな行事にも一緒に参加したりして充実した思いに感動します。ありがたいです。

◆ 辛かったことはないですか。

佐々木 全然ないです。「いちび」は楽しく「ありがたい」ところです。

◆ これからの「いちび」を活性化するために何か意見はありませんか。

佐々木 新鮮な物を出して若い人達も関心をもって「いちび」に足を運ぶように、朝市通りの賑わいを取り戻すように行政も考えてほしいです。若い人が少なくなつてどうなることかと心配です。
(取材：大石フサ)

佐々木 自分の家の畑で春

◆ 売り物は自分で用意したものでですか。

佐々木 母さん(姑)の跡を継いだのです。

◆ きっかけは何ですか。

佐々木 30才頃から来ています。

◆ いつ頃から「いちび」に出るようになったのですか。

がんばってます



(株)宮盛
阿部 杏奈 さん (七倉)

今年の四月に(株)宮盛に入社しました。四月から一カ月の間の工場での研修を経て、現在は営業事務を担当しております。

電話や来客の応対や伝票の処理、製品の出荷、各デパートの入力など一日の業務はたくさんありますが、入社から約五カ月が経ち、会社の雰囲気や業務にも徐々に慣れてきたためか、学生の頃とはまた違う充実感を日々感じています。

入社して間もない頃は、製品の名称や用語、単位など仕事をしていく上で覚えなければいけない事も多く、また慣れない業務に戸惑ったり、時には落ち込んで

だりすることもありました。早く一人前の社会人となる為、先輩方からたくさんのご意見を吸収し、日々精進しています。

こうして生まれ育った五城目町に就職し、社会人としてのスタートを切れたことを嬉しく思います。まだ一歩を踏み出したばかりで未熟な面も多々ありますが、社会人としての自覚や責任の重さを強く感じています。

今まで支えて頂いた方々に感謝をしながら、これから社会や地域に貢献していきたいよう努力して参りたいと思います。

(取材：伊藤英紀)

編集 後記



立春から数えて210日前後に台風がくる。大震災復興の道筋が見えず、その傷が癒えないうちに台風被害に脅かされる。3・11以来、日本が災害列島であることを改めて実感した。

五城目町議会はこの間、「湖東病院を守る住民の会」との懇談や、率浦大学での議会報告会など、積極的に活動を展開してきた。各地域に向いての報告会も望まれている。

大震災は「当たり前」の暮らし「がいかに貴重なものか」を知らしめてくれたと思う。台風を昔は「野分」と呼んだ。野の草を分けて吹きすすぶ風が、少しでも穏やかであるように念じたい。

石川 交三 記